

# 日本メンデル協会第1回大会（東京大会）のご案内



## ご挨拶

日本メンデル協会は、イメージング、顕微鏡技術、分子生物学、バイオインフォマティクスなどのさまざまな研究方法を駆使した、細胞学、細胞遺伝学、細胞生物学を含む細胞科学および遺伝学の分野での、幅広い生物に関する研究発表をサポートしており、迅速な情報交換と会員相互の交流と学術研究の向上発達を図ることを主たる目的として第1回大会を日本女子大学（目白キャンパス）にて開催します。本大会は**日本女子大学との共催**となります。本大会が細胞遺伝学に新たな地平を切り拓く契機になればと期待しております。

日本メンデル協会第1回大会実行委員会

大会会長：永田 典子（日本女子大学）、 実行委員長：松永 幸大（東京大学）

1. 期日 **2024年6月15日（土）**（受付開始：9：30）

2. 会場 **日本女子大学（目白キャンパス）新泉山館** 〒112-0015 文京区目白台2丁目8-1

### 交通アクセス

JR山手線「目白」駅から 徒歩 約15分 バス 約5分

【都営バス（学05）】 日本女子大学前行（直行）

【都営バス（白61）】 新宿駅西口行き、またはホテル椿山荘東京行「日本女子大前」バス停下車

東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅（3番出口）から 徒歩8分

東京メトロ有楽町線「護国寺」駅（4番出口）から 徒歩10分

東京さくらトラム（都電荒川線）「鬼子母神」駅から 徒歩10分

3. **大会参加費、懇親会費（不課税）**

（1）大会参加費

会 員      正会員：2,000円      学生会員：1,000円

非会員      一般：3,000円      学生：2,000円

注）日本女子大学所属の学生は大会参加費無料です。

（2）懇親会参加費

一般：5,000円      学生：3,000円

4. **プログラム**

**9:30 大会受付（新泉山館1階ロビー）**

大会参加費と懇親会費をお支払いの上、ネームカードをお受け取りください。

日本メンデル協会入会も同時に受け付けております。入会もぜひご検討ください。

**10:00～11:30 ポスター発表（2階 会議室1&2）**

奇数番号発表10:00～10:45 偶数番号発表10:45～11:30

**11:50～12:50 評議員会（2階 201教室）ハイブリッド会議**

**13:00～15:00 一般招待講演（1階 大会議室）（座長：吉田大和、松永朋子、風間裕介）**

13:00 山口正視（千葉大学）「深海微生物に関する電子顕微鏡的研究」

13:20 峯一朗（高知大学）「巨大細胞性藻類の細胞壁表面微細構造の原子間力顕微鏡による観察」

13:40 竹下毅（東京大学）「ヘマトコッカス藻色素アスタキサンチンの産業利用に資する培養法とロバストスクリーニング」

14:00 後藤真里（帝京大学）「GPCRを介した生理活性脂質の働きについて」

14:20 池田美穂（福井県立大学）「改変型転写因子を用いたシロイヌナズナのホルモンフリー不定芽・不定胚誘導時の細胞学的観察」

14:40 高井明德（大阪信愛学院大学）「クマノミ亜科魚類の染色体進化」

**15:00～15:10 休憩**

**15:10～15:30 総会・表彰式（1F 大会議室）**

**15:30～17:10 奨励賞受賞講演（1F 大会議室）（座長：松永幸大）**

15:30 田中若奈（広島大学）「イネの幹細胞と形態形成に関する発生遺伝学的研究」

15:55 坂本卓也（神奈川大学）「植物細胞における適切なセントロメア配置の形成機構と意義の解析」

16:20 佐藤陽一（理研食品）「とことん海藻種苗生産 ー大きなバイオマスを支える微小世代の科学ー」

16:45 墨谷暢子（新潟大学）「単細胞藻類における細胞と葉緑体の分裂の協調」

**17:10～17:40 特別招待講演（1F 大会議室）（座長：河野重行）**

成瀬清（基礎生物学研究所）「メダカとメンデル遺伝」

**18:00～20:00 懇親会（七十年館：生協1階）**

**5. ポスター発表**

A0ポスター（841mm × 1189mm）以内のポスターをご用意ください。当日は、会場で準備しております画鋏やテープなどをご使用の上、指定の番号のボードに10時までにポスターをお貼りください。発表時間は奇数番号10:00-10:45、偶数番号10:45-11:30です。○がポスター演者になります。ポスターは11時40分までにボードから剥がして、発表者各自でお持ち帰りください。

今回、優れたポスター発表をした若手発表者数名にポスター発表優秀賞を表彰することになりました。P01からP16までの下線のポスター演者はポスター賞対象者です。正会員の方に受付でお渡しします投票用紙に、優秀なポスター発表と思われるポスター番号を3つ選んで記入して、11時40分までに受付の投票箱に投票ください。

- P-01 原色素体からエチオプラストへの分化プロセスにおける膜構造の超微構造解析  
○大目歩果<sup>1</sup>、上床理紗<sup>1</sup>、小林啓子<sup>1</sup>、高橋綾子<sup>1</sup>、大崎有美<sup>1</sup>、秋田佳恵<sup>1,2</sup>、藤井祥<sup>3</sup>、  
小林康一<sup>4</sup>、永田典子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>日本女子大・院理、<sup>2</sup>日大・生物資源、<sup>3</sup>弘前大・農生、<sup>4</sup>大阪公立大・院理
- P-02 エチオプラストから葉緑体への分化における膜脂質変異体の超微構造学的解析  
○上床理紗<sup>1</sup>、大目歩果<sup>1</sup>、小林啓子<sup>1</sup>、高橋綾子<sup>1</sup>、大崎有美<sup>1</sup>、秋田佳恵<sup>1,2</sup>、藤井祥<sup>3</sup>、  
小林康一<sup>4</sup>、永田典子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>日本女子大・院理、<sup>2</sup>日大・生物資源、<sup>3</sup>弘前大・農生、<sup>4</sup>大阪公立大・院理
- P-03 ステロール過剰蓄積が花粉形成に与える影響  
○小林啓子<sup>1</sup>、秋田佳恵<sup>1,2</sup>、鈴木優志<sup>3</sup>、島田貴士<sup>4</sup>、永田典子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>日本女子大・理、<sup>2</sup>日大・生物資源、<sup>3</sup>大妻女子大・社会情報、<sup>4</sup>千葉大・院・園芸
- P-04 トレニアフリル変異体 frilly petal undulation1の花弁における維管束の形態異常  
○黛隆宏<sup>1</sup>、石井公太郎<sup>2</sup>、畑下昌範<sup>3</sup>、高城啓一<sup>3</sup>、阿部知子<sup>4</sup>、風間裕介<sup>1,4</sup>  
<sup>1</sup>福井県大院・生物資源、<sup>2</sup>量研機構・放医研、<sup>3</sup>若工ネ研・生物資源、<sup>4</sup>理研・仁科セン
- P-05 シロイヌナズナの発達ステージに依存した遺伝子発現と核内構造の変化  
○兵度友誉<sup>1</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>、Jeffrey Fawcett<sup>2</sup>、門田満隆<sup>3</sup>、工樂樹洋<sup>4</sup>、風間裕介<sup>1,5</sup>  
<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>理研・iTHEMS、<sup>3</sup>理研・BDR、<sup>4</sup>国立遺伝学研究所、<sup>5</sup>理  
研・仁科センター
- P-06 シロイヌナズナにおける重イオンビーム誘発ゲノム再編成の構造決定  
○鶴飼優葉<sup>1</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>、Jeffrey Fawcett<sup>2</sup>、坂本卓也<sup>3</sup>、杉田和陽<sup>1</sup>、生駒拓也<sup>1</sup>、兵渡友誉<sup>1</sup>、  
田中裕之<sup>4</sup>、伊藤武彦<sup>4</sup>、阿部知子<sup>5</sup>、松永幸大<sup>6</sup>、風間裕介<sup>1,5</sup>  
<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>理研・iTHEMS、<sup>3</sup>神奈川大・理、<sup>4</sup>東工大・生命理工、<sup>5</sup>理  
研・仁科センター、<sup>6</sup>東京大・院・新領域
- P-07 雌雄異株植物ヒロハノマンテマの性決定遺伝子GSFYの獲得におけるCLV3オーソログの  
機能分化  
○小林壮生<sup>1</sup>、鬼頭萌<sup>1</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>、池田美穂<sup>1</sup>、Dmitry A Filatov<sup>2</sup>、風間裕介<sup>1,3</sup>  
<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>オックスフォード大・生物、<sup>3</sup>理研・仁科センター
- P-08 ナデシコの花芽において接触刺激に応答して発現する遺伝子群の同定  
○畑中悠那<sup>1</sup>、西嶋遼<sup>1</sup>、小林壮生<sup>1</sup>、篠山治恵<sup>1</sup>、池田美穂<sup>1</sup>、風間裕介<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>福井県大・院・生物資源、<sup>2</sup>理研・仁科センター
- P-09 植物のシュート再生に関するプライミング複合体の機能解析  
○半田和華<sup>1</sup>、佐藤輝<sup>1</sup>、坂本卓也<sup>2</sup>、野澤彰<sup>3</sup>、澤崎達也<sup>3</sup>、松永幸大<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東大・院・新領域・先端生命、<sup>2</sup>神奈川大・理・理、<sup>3</sup>愛媛大・PROS
- P-10 Analysis of a blue light receptor CRY1 during plant regeneration  
○Min Li<sup>1</sup>、Hikaru Sato<sup>1</sup>、Takuya Sakamoto<sup>2</sup>、Yayoi Inui<sup>1</sup>、Kazunari Yamamoto<sup>1</sup>、  
Tomonao Matsushita<sup>3</sup>、Sachihiko Matsunaga<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo、<sup>2</sup>Grad. Sch. Sci., Univ. Kanagawa、<sup>3</sup>  
Grad. Sch. Sci., Univ. Kyoto

- P-11 動物培養細胞と微細藻類を用いた細胞内共生へのアプローチ  
○小玉智恵<sup>1</sup>、澤田幸希<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東大・院・新領域・先端生命
- P-12 動物培養細胞とシアノバクテリアの共培養による一次共生系の構築  
○石田萌音<sup>1</sup>、小玉智恵<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、仮屋園遼<sup>2</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、小山内崇<sup>2</sup>、丸山真一郎<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東大・院・新領域・先端生命、<sup>2</sup>明治大学・農学
- P-13 CHO-K1細胞におけるクロロフィル合成経路の構築によるクロロフィルaの生合成  
○小島龍弥<sup>1</sup>、松永朋子<sup>1</sup>、墨谷暢子<sup>2</sup>、和田直樹<sup>3</sup>、刑部敬史<sup>3</sup>、松永幸大<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東大・院・新領域・先端生命、<sup>2</sup>新潟大・理・理、<sup>3</sup>徳島大・生物資源産業・生物育種
- P-14 動物培養細胞に取り込まれた微細藻類の細胞生物学的解析  
○アベディンシャブニルイシラク<sup>1</sup>、澤田幸希<sup>1</sup>、乾弥生<sup>1</sup>、松永幸大<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東大・新領域・先端生命
- P-15 ライブイメージング解析に基づく、シロイヌナズナ受精卵の極性的な伸長機構の解明  
○松本光梨<sup>1</sup>、康子辰<sup>2</sup>、中川朔未<sup>1</sup>、野々山朋信<sup>2</sup>、石本志高<sup>3</sup>、檜垣匠<sup>4</sup>、津川暁<sup>2</sup>、植田美那子<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東北大・院・院生命科学、<sup>2</sup>秋田県大・システム、<sup>3</sup>佐賀大・理工、<sup>4</sup>熊本大・IROAST
- P-16 シロイヌナズナの様々なエコタイプにおけるセントロメア配置の解析  
○矢野賢人<sup>1</sup>、坂本卓也<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>神奈川大学理学部
- P-17 稲沢市祖父江町のイチヨウ品種の形態比較  
呂虹橋<sup>1</sup>、澁谷龍弥<sup>2</sup>、小林正美<sup>2</sup>、山下博史<sup>3</sup>、内田美重<sup>1, #</sup>、井上和仁<sup>4,5</sup>、○内田英伸<sup>1,5</sup>  
<sup>1</sup>名古屋文理大学・フードビジネス、<sup>2</sup>筑波大学・物質工学域、<sup>3</sup>京都府立大学・環境理、<sup>4</sup>神奈川大学・化学生命、<sup>5</sup>神奈川大学・総理研、<sup>#</sup>現職：名城大学・院・総合学術
- P-18 植物組織のサンドイッチ凍結・凍結置換法による電顕観察  
○山口正視<sup>1</sup>、佐藤繭子<sup>2</sup>、高橋 梓<sup>1</sup>、豊岡公德<sup>2</sup>、知花博治<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>千葉大学・真菌医学研究センター、<sup>2</sup>横浜理研
- P-19 コムギ、エンバクとチカラシバ属間での亜科間交雑の雑種初期胚で起こる染色体脱落  
○石井孝佳<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構・乾燥地研究センター
- P-20 ヘマトコッカス26株のアスタキサンチン生産性と重イオンビーム照射株のロバストスクリーニング  
○竹下毅<sup>1</sup>、瀧田香織<sup>1</sup>、三浦昌也<sup>1</sup>、鈴木辰也<sup>1</sup>、阿部知子<sup>2</sup>、河野重行<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>東大・院・新領域、<sup>2</sup>理研・仁科センタ

## 6. 大会に関する問い合わせ先

〒277-8562 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学大学院新領域創成科学研究科

日本メンデル協会第1 回大会実行委員長 松永幸大 E-mail: sachi@edu.k.u-tokyo.ac.jp

## 7. 日本メンデル協会入会のお誘い

日本メンデル協会の正会員:会費は年9,800円です。なお、正会員であっても、学生、ポストドク(PD)、退職者は申し出れば会費を2,000円に減額します。

**正会員は、学術誌CYTOLOGIAに投稿し、審査を通過すれば1年間に2回までは無料で論文を掲載することができます。**また、日本メンデル協会通信を無料で受け取ることができます。

大会後に入会を希望される場合は、下記までご連絡ください。

日本メンデル協会 幸光万里

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-2 エポック本郷

TEL:03-3814-5675 FAX:03-3814-5352

E-mail: ISC-Mendel-Cytologia@edu.k.u-tokyo.ac.jp

## 8. 学術誌CYTOLOGIAへの投稿のお願い

CYTOLOGIA (キトロギア) は、原著論文、レビュー、フォーカス、テクニカルノートなどを掲載する英文学術誌です。原著論文はサーキュレーションがいいのが特徴です。フォーカスはキトロギアに焦点をあてた短いレビュー、テクニカルノートは大扉とペアの2ページの短報です。テクニカルノートに掲載が決まると原稿料を差し上げます。大扉はキトロギアの表紙も兼ねていて、キトロギアが扱う代表的な分野とその時々最新の話題が表紙になります。

キトロギアは、科学技術振興機構(JST)の採用する電子投稿査読システム Editorial Manager ®を新たに導入、世界共通のプラットフォームでストレスレスな投稿、丁寧で親身な審査に加え、迅速な編集・出版を可能にしました。そして、細胞遺伝学と細胞学に加え、核型解析、ゲノム科学、系統分類や生態学的などの最新成果を掲載して出版しております。詳しい投稿方法は英語版の["Instructions to Authors"](#)に右側のQRコードからアクセスしてご覧ください。



## 9. 学術誌CYTOLOGIAおよび日本メンデル協会はサンフランシスコ宣言に署名しています

「研究評価に関するサンフランシスコ宣言」の署名者は、研究評価における以下のような方法の適用に賛同しています。

- (1) 個々の科学者の貢献を査定する、すなわち雇用、昇進や助成の決定をおこなう際に、個々の研究論文の質をはかる代替方法として、インパクトファクターのような雑誌ベースの数量的指標を用いないこと。
- (2) 助成申請者の科学的生産性の評価に用いられる判断基準が明示的であること。また、特にキャリアの初期段階にある研究者に対して、出版物の数量的指標やその論文が発表された雑誌がどのようなものであるかということよりも、その論文の科学的 contentの方がはるかに重要であることを、はっきりと強調すること。
- (3) 研究評価を行う上で、研究出版物に加えて（データセットやソフトウェアを含む）研究のすべての成果の価値とインパクトを検討すること。また、政策や実用化への影響といった研究インパクトの質的な指標を含む、幅広いインパクトの評価基準を考慮すること。
- (4) 雇用、任期、昇進の決定する際に用いられる判断基準が明示的であること、特にキャリアの



初期段階にある研究者に対して、出版物の数量的指標やその論文が発表された雑誌がどのようなものであるかということよりも、その論文の科学的內容の方がはるかに重要であることを、はっきりと強調すること。

(5) 販売促進手段としてのインパクトファクターの強調を大幅に縮小させること、理想的にはインパクトファクターの宣伝を中止すること、または雑誌のパフォーマンスについてより豊富な視点を与える様々な数量的指標（例、5-year impact factor、EigenFactor、SCImago、h-index、編集と出版に要する時間等）の文脈に沿った上でインパクトファクターを提供すること。

(6) 様々な論文レベルでの数量的指標を利用可能にすること、それによって論文が発表された雑誌についての数量的指標ではなく、論文自体の科学的内容を基にした評価への転換を促すこと。

## 10. 学術誌CYTOLOGIA最新号のご案内

日本メンデル協会にご入会いただき、キトロギアに論文原稿を投稿ください。

キトロギアの最新号のHPトップページを下記に記します。右のQRコードからも最新号を閲覧できます。



Journal Information

Author Instruction

Submit Manuscript

Archive

About Us

>> This Issue

**Technical Note**  
**M-FISH as a sensitive tool for detecting chromosome aberrations induced by low levels of radiation**  
 Chromosomal aberrations are produced when DNA double-strand breaks are induced in living cells by exposure to ionizing radiation. See [Kohda A. et al. \(2024\) Cytologia 89\\_1-2](#).  
[>> Cover Photo Gallery](#)

(A) Callus induction → Primed state → Shoot induction → Quick shoot regeneration. Mechanism involves LDLS, TF, and RNAP II leading to quick transcriptional activation.

(B) Inflammatory stimuli → Inflammation → Primed state → Injury → Quick skin repair. Mechanism involves HMT, TF, RNAP II, and a "Memory domain" leading to enhanced transcription.

**Focus**  
**Regeneration favors the epigenetically primed state in the callus or the stem cell**  
 See [Handa N. and Matsunaga S. \(2024\) Cytologia 89\\_3-5](#).

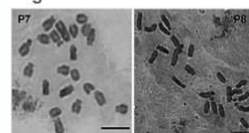
## Current Articles

### Regular Article



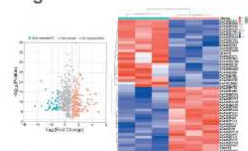
**Chromosome number variation in the genus *Acemella* (Asteraceae) from Thailand**  
 See [Pitaktharm T. et al. Cytologia 89\\_7-19](#).

### Regular Article



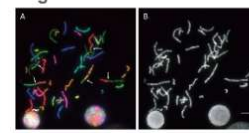
**Karyomorphological and genome size variation in Iranian endemic populations of coriander (*Coriandrum sativum* L.)**  
 See [Khakshour A. et al. Cytologia 89\\_21-27](#).

### Regular Article



**LncRNA MTC enhances the proliferation of Liaoning cashmere goat skin fibroblasts by modulating GSTM1-ASK1 interaction**  
 See [Jin M. et al. Cytologia 89\\_29-37](#).

### Regular Article



**Assessing the applicability of a modified replication banding protocol for the analysis of radiation-induced chromosomal aberrations in cultured human lymphocytes**  
 See [Akiyama M. et al. Cytologia 89\\_39-46](#).